

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393600081		
法人名	株式会社アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうららびより江南 2F		
所在地	愛知県江南市江森町中23番地		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2393600081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「どこにも無い暮らしを〜くつろぎの家〜」をコンセプトに今までと同様にゆったりくつろげる場であることを大切に、自分の家として、利用者様本位の介護に努めています。四季を感じていただく為に施設内の壁画や作品も季節に合わせた物を一緒に作っていきます。天気の良い日は施設の周りを散歩します。また季節ごとに行事を企画して、楽しんで頂きます。外出が出来ない中、施設内で楽しめるようにと、スタッフが工夫して行事を行っています。それぞれ目標を持ち、体力知力の維持が出来るように、出来ることを生かしながら支援しています。毎日リハビリ体操、ラジオ体操、歩行運動を行います。家族に年賀状や暑中見舞いを書くため、字の練習もします。誕生日には、その方の食べたいものを用意したり、企画を考えて楽しんで頂きます。定期的な換気 手洗い、うがい、消毒を徹底して、うつらない、うつさない、広げないを意識して、スタッフ一同で対策に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ほほえみ絶やさずうらかに、木曾清流、強さと優しさ繋がる想い」を運営理念に玄関先、フロアに掲げ、毎朝申し送り前に職員が全員で、唱和している。広告、新聞、請求書にも運営理念を掲げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会費を支払い、広報を届けてもらう。こども食堂はコロナの為、中止した月もあったが社協の協力を得て頂いた米や野菜で、弁当をテイクアウトで用意したり、食数を減らして営業し交流が途絶えることがないように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	隣の喫茶店にチラシを置かせていただいたり、町内掲示板に掲示をさせていただいている。パン屋も出来、身近に感じ、気軽に来ていただける環境を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	区長、民生、交友会、市役所、包括の方、協力医やご家族様にも書面で報告をし、意見をいただいている。コロナの状況をみながら対面での開催も行っている。意見をいただいたことには、早急にお答えし、サービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者に、質問等を電話で尋ねたり出向いて相談している。推進会議の資料を送り、施設の実情を報告している。市の依頼には可能な限り協力し対応している。相談員の訪問はコロナの為、中止していた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成し拘束ゼロ運動を実施。勉強会を定期的に行い、レポートを提出しケアの見直しを定期的に行っている。職員間でも発言できる環境作りに努めている。ケアマネ会議でも課題とし話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	日常の介護の中で、言葉遣いや態度に注意している。入浴時には身体チェックを常に意識づけている。定期的に勉強会をして、虐待行為にあたらぬ職員同士で確認し、対応について共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会で制度を学び、理解を深めるように努めている。利用者が尊厳ある生活を維持し、安心安全な環境の下で生活出来る様に支援している。成年後見制度を利用している利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明書、契約書を読み上げ、理解して頂けるように説明している。質問がないか確認し、疑問点には、納得して頂けるように、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に重要事項の中で、苦情窓口設置について説明をしている。玄関先にご意見箱を設置し意見や質問を頂き反映に努めている。常日頃から要望を言いやすい関係づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議、職員会議、ユニット会議で、改善点、改善すべき点の意見や提案を聞き、反映している。年に2回、個別面談を行っている。いつでも意見を出しやすい環境を整え、柔軟に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の努力や勤務状況を見極め、生きがいを持てるような環境作りに努めている。それぞれ 人事評価表を作成し自身の目標を決めて業務に取り組んでいる。管理者は、向上心が持てるようにアドバイスしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修受講制度を取り入れている。人材育成の取り組みを会社全体で行っている。外部の研修は、コロナの為、CD-ROMを取り寄せて全員が参加出来るようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナの為、相互訪問等の活動は減っているが江南市包括、他の事業所に双方で連絡を取り、交流を持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前に本人様にもお会いし、話を聞いたり、身体の様子を確認し、適切に必要な支援につなげている。施設の見学もしていただいている。本人の要望や不安を傾聴し、寄り添うことで安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前に家族とも面談の機会を設けている。要望、相談事には耳を傾け、話し合いを重ねて、不安や困り事には、すみやかに対応し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	生活環境と状況を理解した上で、ご本人、家族にとって、必要としている最適なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は生活するうえで必要な介助をさせて頂き、本人らしい生活ができるように考え、それぞれの生活リズムを尊重し、日々コミュニケーションをとり、信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に衣替えや消耗品をお願いし、ご家族との関わりが途切れないように努めている。常に近況報告も行い、本人及び家族の思いを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からの関係を大切にもらう為にzoom面会を推奨している。ガラス越しでの面会も行い、交流している。家族が定期的に散髪、カラーをしている利用者様もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	会話ができる座席にしたり興味があること、得意なことが同じである方と一緒に取り組みながら交流出来る様に支援している。職員が間に入ることでコミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様が亡くなられた後も家族が、野菜などを届けてくれたり、気軽に立ち寄ってくださり、信頼関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月ユニット毎にカンファレンスを行い、職員間で情報共有し、より良い支援に繋がっている。日々観察しコミュニケーションをとり、傾聴して個々の思いを把握し支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の様々な情報収集を行い、家族、本人からの聞き取りをして把握に努めている。ファイルや申し送りで、職員が情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の日常の様子をよく観察し、日々の記録を見返して、心身状態を把握し、小さな変化に気づけるように努めている。職員間で情報共有する事で、その時に必要な支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なモニタリング、毎月のカンファレンスを実施し、医師、家族とも話し合い、現状に合った介護計画を作成している。状態の変化があれば、職員の意見を聞きながら即変更し、常に適した内容で介護提供できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画の内容に添って日々の様子や本人の言葉など記録している。気づきを大切に、記録に残し申し送りもしている。情報共有する事で、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の要望には、出来るかぎりその方に合った対応ができるよう努めている。本人の様子を細かく把握することで、柔軟な対応が出来るように心がけている。必要なサービスが受けられるように他職種連携を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方々の催しもしていたがコロナの為、今は出来ていない。子供食堂にはボランティアの方の参加もあり、野菜などを届けてくださる方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医による定期的な訪問診療を行い、日々の様子を報告し、本人の言葉でも状態を伝え健康な生活が送れるように支援している。体調の変化あれば往診、または、家族の方に協力して頂き通院してもらう。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションを利用し、24時間体制で、連絡、相談が出来るため体調変化の細かな支援に繋げている。相談事には、併設事業所の看護師による支援も行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をして、スムーズな治療が受けられるようにしている。ソーシャルワーカー、看護師に状況を聞き、家族の思いも聞き、密に連携を取り状態の把握をしている。互いに相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り指針を示し、協力医と共に、本人、家族の要望を聞き、カンファレンスを実施している。関係者全員の理解と情報共有をして連携して対応している。家族の不安にはその都度傾聴し、終末期のケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	対応マニュアルを作成し、初期対応を行う。併設事業所の看護師による急変時の実践訓練を行っている。消防署によるAED講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署による全体的な避難訓練を行っているがコロナの為、出来ていない。防災マップの確認、想定を変えた災害時の訓練を毎月行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ、入浴時には、特にプライバシーを尊重し、羞恥心に配慮している。人生の先輩として言葉遣いにも気をつけ、職員間で統一するように努めている。プライバシーに関する勉強会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの生活リズムに合わせ、選択や行動の自由など、自己決定出来るように支援している。提案の仕方を二者択一など工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の気分や体調をみながら、ひとりひとりの気持ちに寄り添い、本人の希望やペースを大切に、本人本位の支援を行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝は毎日、鏡を見て髭剃りしたり髪を整えている。イベントの時は口紅をつけて化粧をし、おしゃれしている 厚着にならないように声かけや介助をし、季節にあった服装が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	感染対策をした上で職員も同じテーブルと一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりしている。皮むきや野菜切りなど簡単な調理に参加したり、テーブルを拭いたり、配膳、下膳に参加している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の献立をもとにその方に合った食事形態で提供している。食事量、水分量を記録し、把握する事で適量摂取出来るように支援している。10時、15時にはおやつを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の歯磨きは必ず行い、出来ない部分は仕上げ磨きをしている。それぞれに応じてスポンジブラシも使用している。うがい、食物残渣の有無も確認して口腔内の清潔に努めている。必要な方には定期的に歯科往診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を活用して一人一人の排泄パターンを把握し定期的に声かけをして、トイレでの排泄が出来るように努めている。日中はリハパンではなく布パンツにするなどその方に合わせた自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分をこまめに摂取したり、排便体操を毎日行っている。食事や運動も工夫して自然に健康的な排便があるように取り組んでいる。必要時、下剤、整腸剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決めてあるが、体調を優先し出来るだけ希望に添えるように工夫している。気分よく、楽しい時間となるように努めている。季節に合わせてゆず湯の楽しみも行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならないように、日中にレクリエーションや体操に参加して活動量を増やして、スムーズで心地よい睡眠を取れるように心がけている。また、午睡時間を設けて適度な休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに処方箋を常備し、すぐに確認出来るようにしている。体調変化あれば医師に報告、相談し、薬剤師とも連携して安全に行っている。服薬前後に二重チェックして間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の好きなこと、得意なことを把握して、塗り絵、習字、縫い物、歌など日々の生活の中で発揮する場を作るように、継続出来るように努めている。係を決めて役割を果たすことで、張り合いを持って頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの中で、外出が難しかった為、ベランダでバーベキューを行ったり、隣の喫茶店でモーニングをし、外出気分を感じていただく。割り後弁当を用意し、いつもと違う雰囲気を楽しんでいただく。戸外で混雑していない場所を選び、お花見や紅葉狩りに出かけた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に金銭の管理は、させていただいている。コロナの為、外出はなかなか難しいが近くのパン屋やコンビニへ職員と出かけ、食べたいものを自分のお小遣いから買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば事務所から、ご自分でかけていただく。個々にノートを用意し、日記をつけたり、文字練習をして字を書く機会を作っている。暑中見舞いや年賀状を書いていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	心地よく過ごせるように清潔、整頓を心がけて、利用者様と一緒に作成した壁画や塗り絵を飾り季節を感じていただく。カーテンを使い光の具合を調整している。トイレ、フロアに空調機器を置き快適な空間を整えている。温度計、湿度計を置き、管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席で隣りの方と話をしたり、気分を変えて、ソファで隣同士会話をして過ごしている。見守りをしながら居室で過ごしていただくこともある。その方のペースにあわせて過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの家具を置き、写真を飾り、好きな置物、お位牌を置くなど、安心して過ごせるような空間作りをしている。環境づくりにご家族にも協力していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア、トイレ、居室、廊下などに手すりを設置している。トイレも分かりやすく、大きく表示し安心して行動出来るように工夫している。フロア内、施設内の動線が安全であるように常に整理整頓を心がけている。		